

2017 年 11 月 30 日

株式会社カラダノート

代表取締役 佐藤 竜也

“ワンオペ育児”のボーダーラインはどこにある？！

ママたちの“ワンオペ育児”の定義と実情、パパの育児参加合格ラインとは

今年の流行語大賞にノミネートされた「ワンオペ育児」。そもそも“ワンオペ育児”の線引きはどこにあるのでしょうか。夫婦の育児参加率の実態や育児をきっかけとした男女の働き方の違いを調査し、ワンオペ育児の定義と、ママたちが“ワンオペ育児”に陥る原因を検証しました。またママからみてパパが育児参加してくれていると感じる合格ラインについても明らかになりました。（対象：全国の育児中の女性 653 人／調査期間：2017 年 11 月 22 日～11 月 26 日）

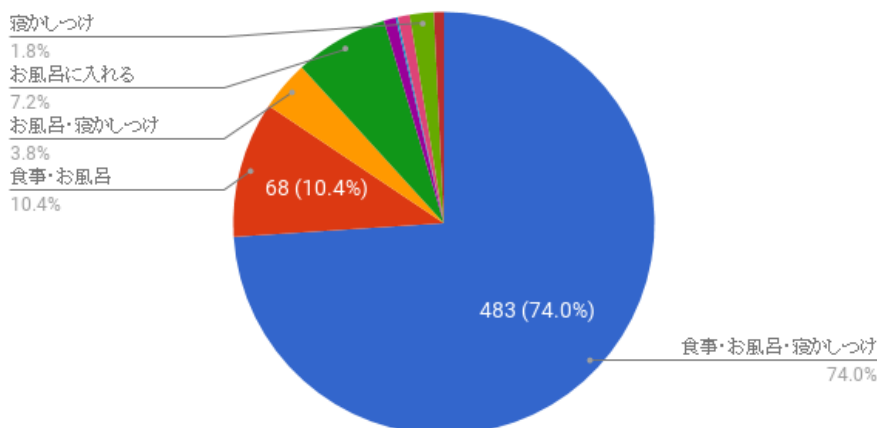
カラダノート（本社：東京都港区、代表取締役：佐藤竜也）は、「家族の健康を支え 笑顔をふやす」をビジョンに掲げ、主に妊娠中から育児中の女性を対象とした「カラダノートシリーズ」を提供しております。今回は「ワンオペ育児」について、全国の育児中の女性 653 人を対象にアンケート調査を実施しました。（調査期間：2017 年 11 月 22 日～11 月 26 日）

●あらためて“ワンオペ育児”って何？ ママたちの定義はズバリ・・・

ママたちにとって“ワンオペ育児”とは、【食事のお世話・お風呂に入れる・寝かしつけのすべてを一人で担当すること】を指すと回答した人が 74%。専業主婦、ワーキングマザー、産休育休中の女性いずれもこの認識の割合に差は見られませんでした。（※データ 1 参照）

“ワンオペ育児”ってどこから？

（対象：専業主婦275名・ワーキングマザー106名・産休育休中272名）



“ワンオペ育児”中のママは半数以上という現実

ワンオペ育児をしている、と回答した人は全体の 50.5%。

専業主婦、ワーキングマザー、産休育休中の女性、いずれも割合の差はほとんどなく（※データ 2 参照）、2 人に 1 人のママはワンオペで育児をしていることになります。

実際に夫婦間でどのくらい育児にかけている時間の差があるのか、具体的な時間を調査すると、平日（夫が働いている日）は、6 時間以上育児に時間を費やすママが 82.6%なのに対し、パパの 61%は 1 時間未満。休日（夫の仕事が休みの日）は、6 時間以上時間をかけるママが 77%に対し、およそ 4 割のパパが 3 時間未満にとどまりました。ただし、18.1%のパパは 6 時間以上育児に時間をかけていると回答しており、パパの中でも意識の差があることがわかりました。（※データ 3 参照）

●なぜ“ワンオペ育児”に陥るのか、その原因は？

“ワンオペ育児”の原因は、夫に関する理由がおおよそ 9 割を占める

ママ自身にどうしてワンオペ育児になっていると思うのか、その理由を尋ねると、「夫の帰宅が遅い（37%）」「夫の仕事が忙しいから（17%）」「夫が協力してくれないから（14%）」と、夫に関わる理由が 68%を占めました。また「夫が仕事で自分が家にいるから仕方ない」「育休産休中なので（仕方がない）」といった、仕方なく自分が育児をするしかない状況だと回答した人は 21%でした。（※データ 4 参照）

働き方の男女差ともワンオペ育児の原因のひとつ

厚生労働省の調査による育児休業取得者のデータ（「平成 28 年度雇用均等基本調査」概要内【イ 育児休業者割合】※データ 3）では、平成 28 年 10 月 1 日までに育児休業を取得した女性の割合は 81.8%なのに対し、男性は 3.16%。ほとんどの働く女性は育児休業を取得し育児をするということは、その間の育児は必然的に大部分を女性が担うことになります。（※データ 5 参照）

働き方に関する項目では、子育てのために退職もしくは働き方を変更したママは 52.5%と半数以上。一方で、84%のパパは働き方が変化しておらず、育児休業の取得や、転職などにより働く環境を見直した人は 10%にとどまっています。（※データ 6 参照）

キャリアチェンジについて、自分から希望したママは 50%、夫婦で話し合っただけで決めたママも 37.3%と、約 9 割近くの女性が自分で働き方を選択しておりますが、変更した理由は「自分が変えるのが当たり前だと思った

（27%）」「子育てに母親が関わるのが大切だから（19.6%）」というように、昔からの性別役割分業制（男性は仕事、女性は家事育児を主に担うこと）の意識も色濃く出た結果となりました。

●パパが育児に関わる時間はいつから増えるのか

赤ちゃんがおなかの中にいる妊娠期を経てママになる女性に比べて、男性はパパになったという自覚が出るまでに時間が掛かるとも言われています。実際に、パパの育児に対する意識や行動はどのくらいの時期から変わったのか聞いてみました。

ママたちの声によると、「最初から変化がない」が 37%で最多という結果に。

変化した人の中では「産後 1 か月（17%）」が最高でした。（※データ7 参照）

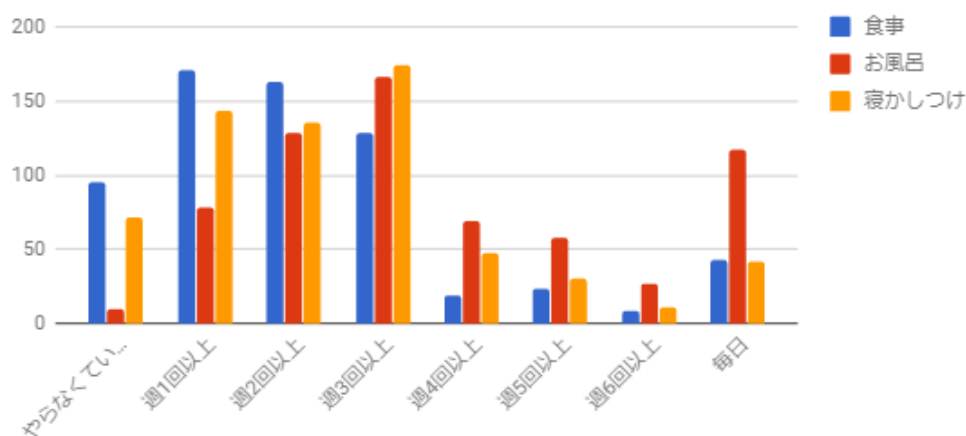
パパの育児参加、ここからが合格ライン

では、何をどのくらいすればパパが“育児参加”しているとママに感じてもらえるのか。項目ごとに、週何回を合格ラインとするか聞いてみました。

結果は、「お風呂に入れる」「寝かしつけをする」がそれぞれ週 3 日以上、「夕食をあげる」が週 2 日以上というのが最も多い回答となりました。

パパの育児参加 合格ライン

週にどのくらいで育児参加しているといえますか言えますか？



回答数：653

また、夫に期待すること 1 位は「早く帰ってきてほしい（30.2%）」次いで「育児を分担してほしい（25.3%）」「家事や育児に対して労いの言葉がほしい（22.7%）」でした。（※データ8 参照）

●まとめ

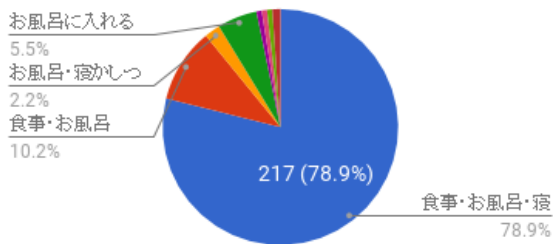
流行語大賞にノミネートされるなど、“ワンオペ育児”が話題になりましたが、ママからみてパパの育児参加は大半が変化していないという現状があり、まだまだママが育児の大半を担っていることがわかります。働き方や仕事にける時間にも男女差があるため、なかなかすぐにワンオペ育児を解消するのは難しいことかもしれませんが、まずはパパが「週 3 日以上お風呂に入れる・寝かしつける、週 2 日以上夕食をあげる」ところから育児参加してみたいかがでしょうか。

“家族の健康を支え 笑顔をふやす”をビジョンとして掲げる当社としても、子育てをするママ、パパをどのように応援していくことができるか今後も模索してまいります。

※データ1：ワンオペ育児の線引き（専業主婦、ワーキングマザー、産休・育休中の女性）

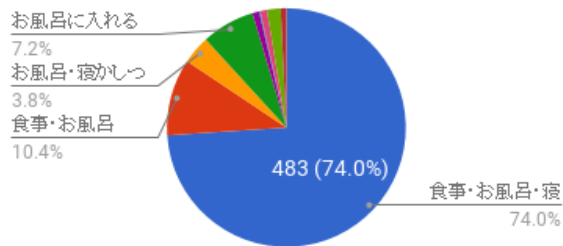
“ワンオペ育児”ってどこから？

（対象：専業主婦 275名）



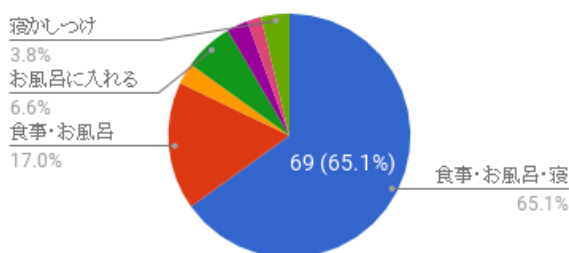
“ワンオペ育児”ってどこから？

（対象：産休・育休中の女性 272名）



“ワンオペ育児”ってどこから？

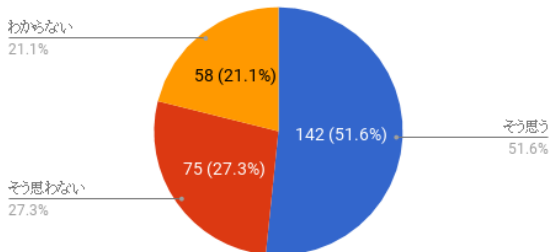
（対象：ワーキングマザー 106名）



※データ2：ワンオペ育児している？（専業主婦、ワーキングマザー、産休・育休中の女性）

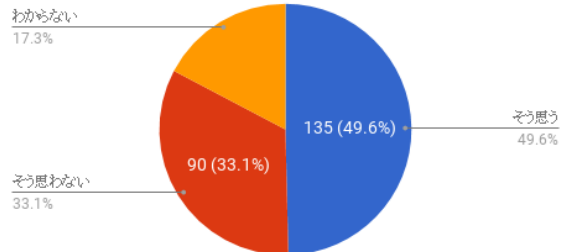
あなたはワンオペ育児をしていると思いますか？

【専業主婦 回答数217(275名中)】



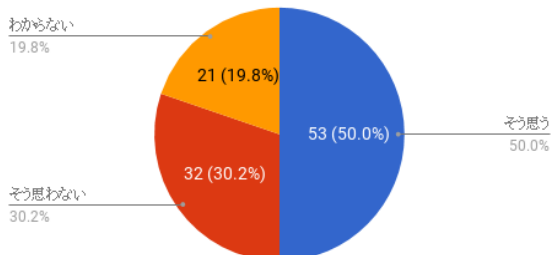
あなたはワンオペ育児をしていると思いますか？

【産休・育休中：272名】



あなたはワンオペ育児をしていると思いますか？

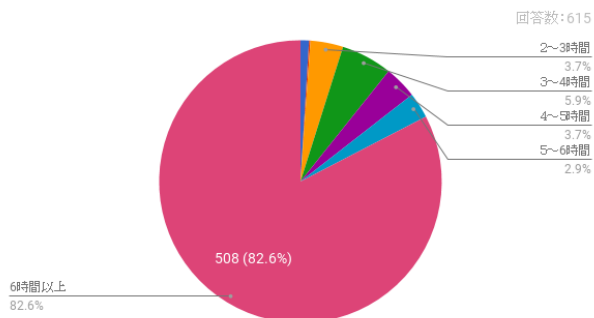
【ワーキングマザー：106名】



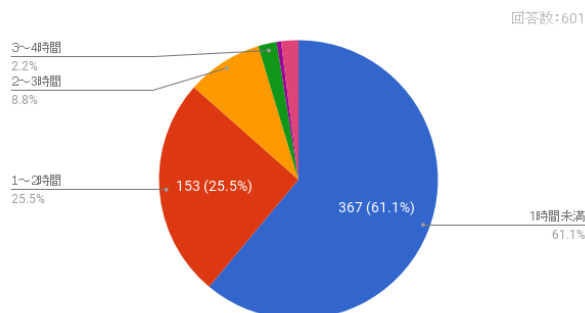
※データ3：厚生労働省「平成 28 年度雇用均等基本調査」概要内【イ 育児休業者割合】参照 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-28r-07.pdf>

※データ3：パパママの育児時間比率

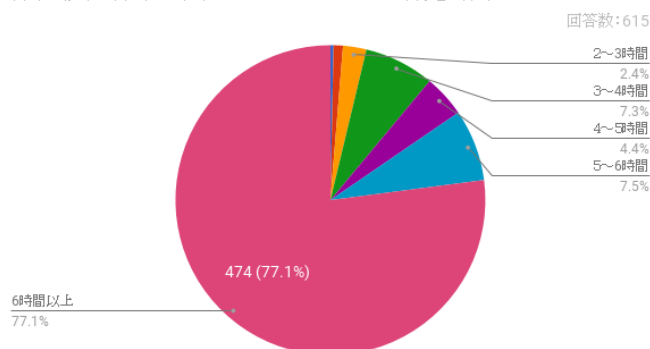
平日（夫が働いている日）ママがにかけている育児時間



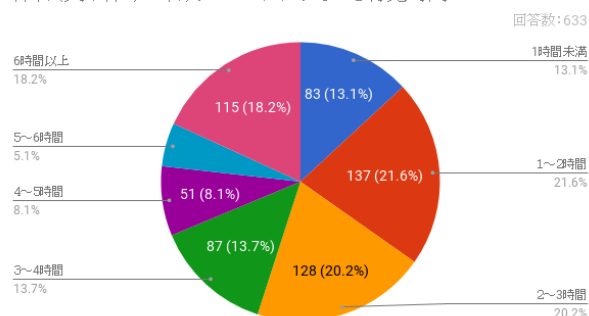
平日（夫が働いている日）パパがにかけている育児時間



休日（夫が休みの日）にママがにかけている育児時間



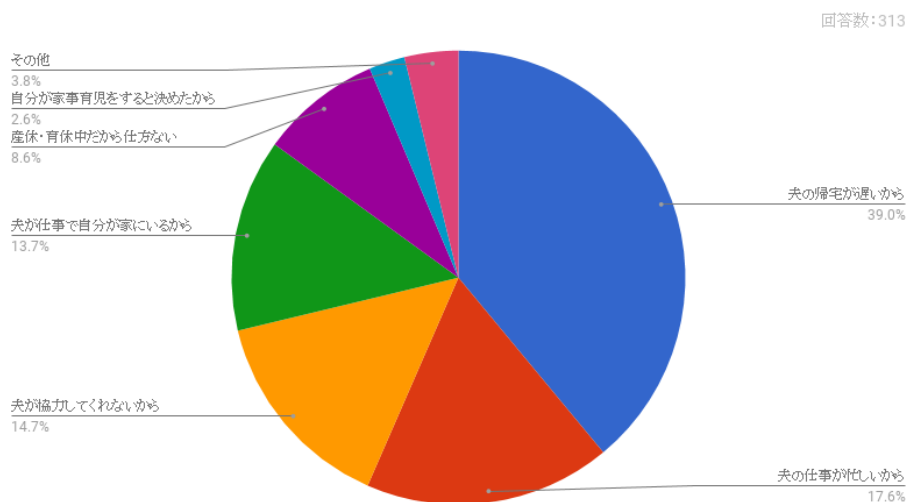
休日（夫が休みの日）にパパがにかけている育児時間



※

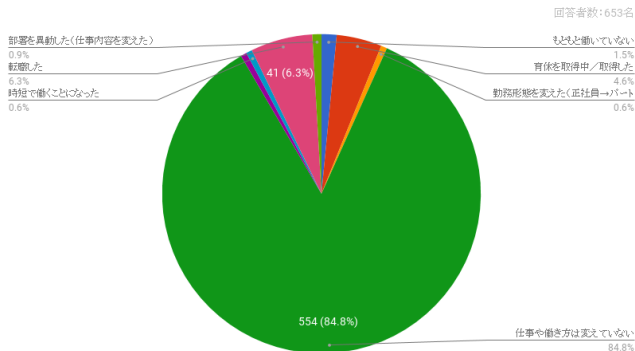
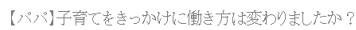
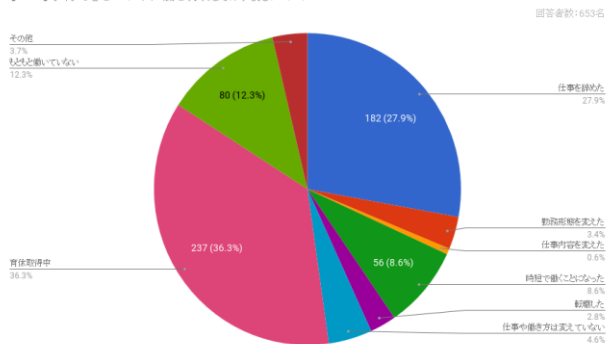
データ4：どうしてワンオペ育児になっていると思いますか？

どうしてワンオペ育児になっていると思いますか？



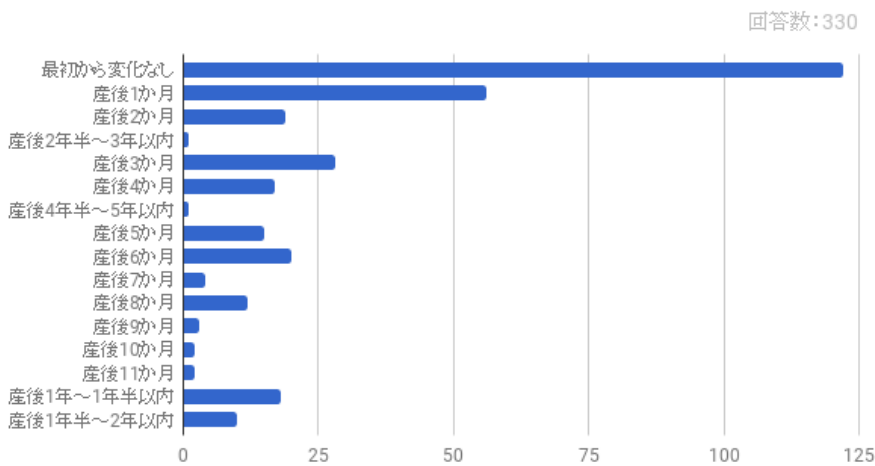
※データ5：厚生労働省「平成 28 年度雇用均等基本調査」概要内【イ 育児休業者割合】参照 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-28r-07.pdf>

※データ6：子育てをきっかけに働き方は変化しましたか？（左：ママ／右：パパ）



※データ7：パパが育児にかかわる時間、いつから増えましたか？

パパが育児にかかわる時間、いつから増えましたか？



■カラダノートママ部「ワンオペ育児に関する調査」

調査方法：インターネット調査

調査期間：2017年11月22日～11月26日

情報公開日：2017年11月30日

対象者：カラダノートママ部メルマガ登録ユーザー653名

（内訳：ワーキングマザー106名、専業主婦275名、産休・育休中272名）

詳細情報はカラダノート家族総研にて紹介しております。

■サイト名：カラダノート家族総研

URL：<http://karadanote.jp/souken/>

■株式会社カラダノート＜<http://corp.karadanote.jp/>>

株式会社カラダノートは、「家族の健康を支え笑顔をふやす」をビジョンに掲げ、主に妊娠中から育児中の女性を対象とした「カラダノートシリーズ」を提供しています。今後も妊娠中から育児中の女性をサポートするサービスの提供に努めてまいります。

■本件に関するお問い合わせ

株式会社カラダノート 広報

【住所】〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目11-11 芝公園2丁目ビル3階

【WEB】<http://corp.karadanote.jp/>

【電話】03-4431-3770